

令和8年度 第1回宇治市健康づくり・食育推進協議会 会議録

日 時 令和8年7月21日（火）14時00分～16時00分

会 場 うじ安心館 3Fホール

参加者 協議会委員：近藤委員（会長）、福田委員（副会長）、中村長隆委員、高木委員、
桂委員、西本委員、中西委員、中村亘宏委員、石川委員、熊谷委員、
曾田委員、今井委員、山口委員、今川委員、重見委員、浅野委員、
委員代理：宇治市健康づくり・食育アライアンス副代表 小川氏（日野委員代理）、
京都府山城北保健所保健課主任 浅貝氏（重見委員随行）
学 生：京都大学大学院医学研究科社会疫学分野の大学院生2名
京都文教大学総合社会学科食マネジメントコースの大学生2名
事 務 局：宇治市健康づくり推進課

次 第 1. 開会

2. 報告事項

1) 健康づくり・食育に係る取組結果と今後の方向性について

2) 団体からの報告

- ・宇治市食生活改善推進員協議会「若葉の会」の紹介
- ・京都府山城北保健所「食の健康づくり応援店」の紹介
- ・京都府山城広域振興局「第5次京都府食育推進計画」等の紹介
- ・京都大学大学院医学研究科「健康づくりを支える社会的処方・文化的処方」について

3. 健康づくり・食育の推進に関するグループワーク

4. 閉会

【会議内容】

1. 開会

1) 宇治市長より挨拶

2) 事務局より新任委員、参加学生、職員の紹介

3) 委員の互選により、近藤委員を会長、福田委員を副会長に選出

■会長より挨拶

科学的根拠や、単にデータを使用するというだけではなく、参加者全員でデータを共有し、当事者を交えて「誰も取り残さない」形でしっかりと議論を深め、政策を進めていくことが本質である。一方的な意見聴取だけではなく、参加者全員で意見を出し、課題を「自分ごと」として捉え

て熟議するために、グループワーク形式を提案している。

当協議会では、毎回グループワークが盛り上がり、様々なアイデアや意見を出していただいている。本日も活発な議論となることを期待している。

2. 報告事項

1) 健康づくり・食育に係る取組結果と今後の方向性について **資料1**に基づき報告

報告者：事務局（健康づくり推進課）

【質疑・応答】

■会長

うじウォークアプリの目標登録者数はどうなっているか。他市のようにスケールメリットを出し、投資に対して健康改善効果のエビデンスを示すことが議会への説得力にも繋がる。

■事務局

アプリは歩数だけでなく血圧や食事記録もできるものに変更した関係で、令和7年度は登録者が約1,600人であった。今年度は3,000人を目標としている。

■委員

HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）の受診勧奨について、国が勧奨を控えていた影響で接種率が激減した背景がある。市長が自らトップダウンでの啓発を行うとともに、対象者の何%が接種したかという割合の目標設定をして進めていただきたい。

■事務局

HPVワクチンについては、小学6年から高校1年まで個別に通知を送付しており、令和2年度の約590名から令和6年度は、キャッチアップ接種の影響もあるが、約5,800名へと大幅に増加している。引き続き正確な情報をお伝えしていく。

■委員

HPVワクチンは高校生まで無償だが、30代・40代になっても発症リスクがある。対象年齢以降の世代（30歳～45歳）にとっては有償となるが、一生ついてまわる問題であるため、乳がん検診等と同様に必要な啓発活動を行っていくべきであると考えている。

2) 宇治市食生活改善推進員協議会「若葉の会」の紹介

■報告者：宇治市食生活改善推進員協議会「若葉の会」

「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、幅広い世代に食育や健康づくりの大切さを伝える活動を継続し、第9回食育活動表彰を受賞した旨を報告。

3) 京都府山城北保健所「食の健康づくり応援店」の紹介

■報告者：京都府山城北保健所

「健康づくり応援ガイドブック」を作成し、野菜メニューやエネルギー表示、適塩など4つの目標のうち1つ以上を満たす飲食店等の登録を推進。府内で823店舗が登録されており、さらに普及を図りたいと報告。

4) 京都府山城広域振興局「第5次京都府食育推進計画」等の紹介

■報告者：京都府山城広域振興局

第5次京都府食育推進計画の概要として、大学生等の若年層の食育強化や、物価高騰等の課題に対応するための農業への理解促進を進めていると報告。

5) 京都大学大学院医学研究科「健康づくりを支える社会的処方・文化的処方」について

■報告者：京都大学大学院医学研究科社会疫学分野 大学院生

医療機関での指導だけでなく、患者を地域の活動や組織（地域資源）につなげることが健康につながる「社会的処方」の考え方を説明。

健康は、個人の努力だけでなく、教育、所得、就労、住環境、人とのつながりといったSDH（健康の社会的決定要因）が大きく影響している。

宇治市は、歴史文化や自然などの豊かな地域と、様々な団体とのつながりを持っている。

地域や活動に参加すること自体が、人々の健康によい影響をもたらす。

医療機関や行政から、孤立しがちな人を、地域の活動（地域資源）へつなぐ「社会的処方」の取り組みが重要視されており、資源をつなぐリンクワーカーの役割について報告。

【質疑・応答】

■委員

上流へのアプローチ（教育、就労、所得など）の中で、特に何を重視すべきか。

■京都大学大学院医学研究科社会疫学分野 大学院生

いずれも重要であるが、特に教育（子どもの頃からの環境づくり）が重要であり、子どもの頃の教育環境が、その後の所得や就労など、生涯にわたる人生や健康の基盤を作るためである。

■会長

補足として、社会的処方は、個人の生きがいや「人とのつながり」を生み出す仕組みとして世界中で注目されている。企業連携の好事例として、生命保険会社の営業担当者が、顧客に対して自治体の行政サービスや地域の活動を紹介する取り組みがある。

3. 健康づくり・食育の推進に関するグループワーク

報告者：事務局

■グループワークのテーマと進め方について

■グループワークテーマ

【Aグループ】働き盛り世代の肥満の改善のために、横浜でできることは

【Bグループ】働き盛り世代に健康づくりを「自分ごと」としてもらうためには

【Cグループ】健康づくりや食育を通じて人とのつながりを広げるには

■グループワーク発表

【Aグループ】

- ・アプリデータを活用し、歩くだけでなく健康行動によってポイントや特典を受けられるインセンティブの拡充が必要。
- ・大学、専門家、学生、病院等の豊富な地域資源と協力し、地域の方に対する健康講座などの啓発を実施する。
- ・企業の地域担当者（配達員など）と連携し、孤立している高齢者へアプローチしていく。
- ・大学等のスポーツ施設を活用し、親子世代や子育て世代向けのスポーツイベントを開催する。

【Bグループ】

- ・新入社員研修や、小中学校の段階からヘルスリテラシー教育を実施する。
- ・スーパーやコンビニの惣菜コーナーに「朝食を食べましょう」等のポップを置くなど、目に見える環境づくりを行う。
- ・健診結果の悪い項目をグラフ化して匿名シールで張り出したり、歩数を個人でランキング化して共有するなど、コミュニケーションを生む「見える化」を図る。
- ・同世代の悩みを共有できる仕組みや、SNS を活用して影響力のある著名人が健康づくりに取り組む姿を発信する。
- ・野菜など健康的な食事を選択しやすくなる補助制度・割引制度の導入や、飲食店の適塩メニュー等で共通のポイントカードを作るアイデアが出た。

【Cグループ】

- ・宇治茶の茶摘み体験や、抹茶を使った調理体験などを起点にし、自ら納得感を持って健康づくりへの意欲を高める。
- ・保育園にシニアクラスを設けるなど、幼保から小中学校に至る教育現場での体験学習や世代間交流を取り入れる。
- ・ゲームのようなアプリを活用して遊び心を取り入れ、若い力を活用して地域のつながりを深める仕掛けが重要である。

総括

■会長

楽しさというキーワードや、素晴らしいアイデアが多数でたのではないかと思います。楽しさというところでは、仲間と競い合ったり、ポイント制度やランクアップする要素など、ゲーミフィケーションを活用すると、楽しみながら意欲を高めることができる。多様なアイデアを実際の政策にぜひ生かしていただきたい。

■副会長

短時間でありながら非常に濃密な議論となり、一気に多くの素晴らしいアイデアがでた。「人とのつながりが健康につながる」という視点のもと、これまでのイベント等でつながった方々との関係を今後も継続し、さらに、今回生まれた新たな発想を活かして、これまでアプローチできていなかった層にも、つながりを広げていけるような施策を展開していただきたい。

4. 閉会

■事務局

次回の協議会は来年3月頃を予定。

以上